

消費地情報HOTLINE

1. 29年産米の販売状況

全体需給の引き締まりによる玄米価格の上昇を受け、店頭精米価格は前年産より100～300円/5kg程度値上がりしています。前年同時期はあきたこまちや他県産コシヒカリで1,380～1,480円/5kgの特売が多数みられましたが、現在は1,680～1,880円/5kgで設定されており、価格競争が厳しいディスカウントストアやドラッグストアでも1,580円/5kgを下回る特売はみられなくなっています。

家庭用は、今のところ大きく落ち込んでいるとの情報はなく、米穀機構が公表する直近のPOS情報をみても精米販売量は前年同時期を上回っています。

一方、米価上昇にともない、近年需要の割合が高まっている業務用ではSBS輸入米の使用増加や米使用量の減少が懸念されています。

【米穀機構POS情報】

<うるち精米販売数量>

(単位:kg/千人)

平成29年	購入量	対前年同月
11月	53.2	+0.7
10月	58.4	+1.5
9月	59.4	±0
8月	58.2	+2.0
7月	56.8	-0.7
6月	58.0	-1.5
5月	57.6	-1.6
4月	63.8	+2.6
3月	58.8	+1.7
2月	57.6	+2.0
1月	52.7	+1.2

<販売量割合上位の産地品種>

(単位:%)

順位	29年10月	
	銘柄	販売割合
1	新潟コシヒカリ	11.5
2	秋田あきたこまち	9.6
3	北海道ななつぼし	6.1
4	ブレンド米	4.7
5	茨城コシヒカリ	3.5

順位	29年11月	
	銘柄	販売割合
1	新潟コシヒカリ	11.2
2	秋田あきたこまち	9.9
3	北海道ななつぼし	6.9
4	北海道ゆめびりか	4.4
5	ブレンド米	4.4

2. 本県産米の販売状況

(1) コシヒカリ

一般コシヒカリの店頭特売価格は1,980円/5kgが主流となっています。消費者の節約志向は根強く、より安価な商品を求める傾向は変わりませんが、他県産主要銘柄との価格差が縮まったことも後押しし、販売シェアは維持されています。

作柄不良により供給量が減少しているため、今後、売場面積が縮小し、30年産の販売への悪影響が懸念されますが、早期に30年産米の播種前契約(複数年を含む)の提案などにより、需要の維持に努めたいと考えています。

(2) 新之助

県内および三大都市圏（首都圏・中京・京阪神）の百貨店・量販店等を中心に提案しています。

店頭価格は1,180～1,580円/2kg（税別）となっており、2kg袋の品揃えが主流となっていますが、卸売業者・小売店からは「売れ行き好調」との声をいただいています。

出回り量が少なく、県外では売場が限られていることから、消費者の認知度不足が心配されましたが、イベントや店頭での試食販売で直接話を伺うと、「TV番組やCM等で新之助のことを知った」という方が多く、前年よりも周知されてきていると感じられます。また、「食味が良い」「名前や包装にインパクトがある」といったコメントをいただく機会が多く、概ね高評価を得ています。

一方、他県産でも「金色の風（岩手）」「いちほまれ（福井）」「だて正夢（宮城）」「富富富（富山）」など高級銘柄を目指す新品种が続々と登場しています。29年産は生産量が少なく試験的な販売に止まっていますが、30年産は生産拡大が見込まれていることから、高級銘柄米を目指す産地間の競争は一層厳しくなると想定されます。

こうしたなか、高品質米の安定生産を前提に、JAグループへの出荷結集、県と連携した宣伝対策、実需者と連携した店頭販促を強化し、新之助のブランド確立をはかります。

【店頭販促状況】



<美米庵（京都高島屋）店頭販促>



<米処四代目益屋（阪急うめだ店）店頭販促>

（JA全農にいがた 大阪事務所）